

月刊 やちまなこ

2023. 6.15 発行

No.307

6月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっ）だより



コオニヤンマ (*Sieboldius albardae* Selys, 1886)

朝陽の当たる塘路湖の水辺。無数の気泡とともに小さな枯れ葉。と思いきや枯れ葉が歩いて移動している。それほど薄くて平べったい生き物の正体は「コオニヤンマ」の幼虫(ヤゴ)。ヤンマと名付けられてはいるものの、ヤンマ科ではなくサナエトンボ科である。成虫は小顔で脚が長く、脚の長さを発揮して大型の昆虫をも捕食する。

釧路湿原では気温の上昇とともに無数のトンボが舞う季節になってきた。



塘路フィールドノート【5/15～6/14】

【野鳥】

一部を除いて冬の渡り鳥が姿を消し、代わって夏鳥たちが主役となっています。新緑の季節を迎えて野鳥の姿は樹木の葉に隠れて見えづらくなりましたが、湖畔に響く夏鳥たちの鳴き声が響き渡っています。



ウグイス (塘路湖畔)

春が来たと思わせる代表格。「ホーホケキョ」は全身の力を振り絞って声を出しています。



オジロワシ (塘路湖畔)

渡り鳥だが一部は留鳥。湖畔の樹木に羽を広げて朝陽を浴びる姿は風格漂う。



ビンズイ (サルボ展望台)

樹林をひらひら舞いながら移動し、枝を横歩きすることも。鳴き声から付いた名は「便追」。



エゾコゲラ (サルボ展望台)

こちらに気付かないのか無視なのか、至近距離で樹木を突いて回る小型のキツツキ。



コムクドリ (茅沼蝶の森)

フン害で有名なムクドリは留鳥ですが、こちらは渡り鳥。つがいで仲良く移動。左♂。



センダイムシクイ (コッタロ湿原)

「チヨチヨビー」の声があちこちで響き渡っています。今の時期、最も声が目立つ。

【植物】

初夏の花が次々に咲き始めました。白い花が多く咲く初夏の湖畔は緑と白の色彩に包まれます。やがて主役は白い花からカラフルな花へと移り、湖畔は真夏の風景へと向かっていきます。



オオバナノエンレイソウ (大花延齢草)
春の中盤に咲く代表的な花。大きな純白の花弁が三角形を作る。6月初旬で花落ち。



コンロンソウ (崑崙草)
水辺や森の中など多様な環境でこの時期目立ちます。吸蜜はミヤマカラスアゲハ。



フタマタイチゲ (二股一華)
塘路湖岸沿いで一斉に咲きました。背も高く堂々と君臨しているかのよう。



ニリンソウ (二輪草)
同じキンボウゲ科の猛毒トリカブトと葉が酷似するが食用可 (生では刺激物質あり)。



ギョウジャニンニク (行者大蒜)
ユリ科⇒ヒガンバナ科。春の山菜の代表格。花を咲かせるまでに10年かかっている。



クサノオウ (瘡王)
林の縁や道端など広く咲く。葉や茎を来ると断面から黄色い汁が出てくる。ケシ科。

◎生き物 Pick Up ピックアップ

エゾノウワミスザクラは海外では極東ロシア、東アジアからヨーロッパに至るユーラシア大陸の冷涼な地域に分布する。我が国では北海道と青森県津軽平野 (ごく一部) にのみ分布し、乾燥化が大敵で水辺を好む。環境省版や北海道版でもレッドデータブックに絶滅危惧種や希少種とされていないが、個体数の減少に危機感を持っている研究者もいる。RDBに指定されない理由として、この樹の研究が少なく生態があまり認識されてない他、1つのクローンが多数の地上茎を出すため、一見多数の「個体」が存在するようにみえて個体数が過大評価されているようだ。研究が進めばこの樹種がやがて絶滅危惧種になるかもしれない。



エゾノウワミスザクラ (花)



エゾノウワミスザクラ (5月)

【昆虫】

気温上昇とともに昆虫たちの動きが活発になってきています。水辺を舞うトンボや翅を休めて太陽光を浴びるチョウがよく見られます。



ヨツボシトンボ (塘路湖畔)
春の鉦路湿原で先陣を切って舞う。翅の結節に斑点があることが和名の由来。



ツバメシジミ♂ (塘路原野)
後翅裏に橙色の紋を持ち、尾状突起がある。山地より平地の水辺や明るい草地を好む。



ミヤマセセリ (茅沼蝶の森)
メスは前翅端の白色部が発達して目立つのでこれはオス。出現は2か月程度と短い。

【報告】「春の展望台散策会」を開催しました

5月20日、サルルン展望台・サルボ展望台周辺にて、旬な夏鳥や山肌に咲き始めた草花を観察する散策会を実施しました。天気が良く、登山口ではウワミズザクラが満開の花で出迎えてくれ、森の中へ入ると、フデリンドウが綺麗な紫の花を咲かせていたほか、マイヅルソウやキジムシロなどの小さな花たちが可愛く咲いていて参加者の目を楽しませてくれました。

子育ての時期に入った野鳥たちは姿こそ少なかったものの、遠くムシクイの声を聴き分けたり、アカゲラ、オオアカゲラ、コアカゲラの見分け方や、よく似た毒草と山菜（スズランとギョウジャニンニク）の見分け方を解説しました。

サルルン展望台では、昨年繁殖が確認されたアカエリカイツブリを皆で観察しました。今回は残念ながら雌1羽しか確認出来ませんでしたが、はっきりとその姿を確認できました。

森の野鳥は静かでしたが、植物17種、野鳥9種、昆虫7種について解説を行いました。



7月の自然ふれあい行事

事前の申し込みが必要です

縄文土器作り講座

[日 時] 7月8日(土) 10時～14時

[定 員・参加料] 15名 350円(材料費)

[開催場所] 塘路湖エコミュージアムセンター

◎申込・問い合わせは

塘路湖エコミュージアムセンターまで

夏の湖畔散策会

[日 時] 7月15日(土) 10時～12時

[定 員・参加料] 15名 無料

[開催場所] 塘路湖エコミュージアムセンター

◎申込・問い合わせは

塘路湖エコミュージアムセンターまで

夏の樹木を見に行こう

[日 時] 7月2日(日) 10時～12時

[定 員・参加料] 15名 無料

[開催場所] 温根内ビジターセンター

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンター

(0154-65-2323) まで

ホタルの週末

[日 時] 7月21日(金)～23日(日)

18時30分～21時

[定 員・参加料] 20名 無料

[開催場所] 温根内ビジターセンター

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンターまで

◆日出・日入時間 5/15(3:58,18:37). 5/31(3:45,18:53).6/14(3:41,19:02)

～指導員の独り言～

■水森かおりが歌う「釧路湿原」(詞:木下龍太郎 作曲:弦哲也 2004年4月発売)は釧路湿原をご当地ソング、しかも演歌にした唯一かもしれない。独り身になった女の未練、切なさを表現した歌詞には「♪夕陽にしばむ エゾキスゲ♪」とある。ところがエゾキスゲは夕方から咲き始め、翌日の昼までがピーク、花が閉じるのは昼過ぎという生態だ。夕方に花が閉じるのはゼンテイカ(エゾカンゾウ=ニッコウキスゲ)。でもこういう指摘は野暮か?

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこっと

☎ 088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL: 015-487-3003 FAX: 015-487-3004

E-mail: emc@kushiroshitsugen-np.jp

Instagram [torokoemc](https://www.instagram.com/torokoemc)

開館時間: 10:00～17:00

(11～3月: 16:00まで)

休館日: 毎週水曜日 12月29日～1月3日

入館無料